

平成29年度 つながる食育推進事業



今泉小学校食育キャラクター
「たのしくたべまる」

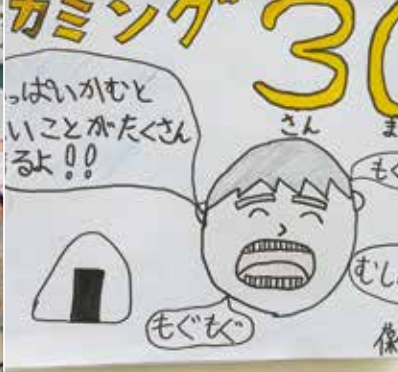
家庭とともに取り組む
食生活改善プロジェクト

～食育チャレンジシートを活用した児童の自己管理能力育成～



平成30年2月

栃木県教育委員会



はじめに

近年、食を取り巻く社会環境の変化により、栄養摂取の偏りや朝食欠食といった食習慣の乱れ等に起因する肥満や生活習慣病、食物アレルギー等の健康課題が見られるほか、食品の安全性の確保や食糧自給率向上、食品ロス削減等の食に関わる課題が顕在化しております。

そのため、子供たちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校において食育を推進することが喫緊の課題となっております。また、子供の食に関する課題を解決するには、子供の日常生活の基盤である家庭における実践が重要となります。

県教育委員会では、「栃木県教育振興基本計画 2020-教育ビジョンとちぎー」及び「栃木県教育大綱」に基づき、学校における食育を推進していくための様々な施策を展開しております。

このような中、本年度は、文部科学省「つながる食育推進事業」の委託を受け、「家庭とともに取り組む食生活改善プロジェクト～食育チャレンジシートを活用した児童の自己管理能力の育成～」を主題とし、宇都宮市立今泉小学校を実践校として食育の実践モデルづくりに取り組んでまいりました。

主な内容としては、学校と家庭が双方向で取り組む「食育チャレンジシート」を核とし、地元の農業系高校及び県内プロスポーツ選手との交流活動や地域協議会と連携した保護者向けの食育講演会等を実施し、家庭におけるより一層の食への理解促進や望ましい食生活の継続的な実践を目指しました。このような取組により、子供と保護者が一緒に生活習慣について見直すよい機会となり、その改善に向けた意識の向上につながるなどの成果が見られました。

この度、宇都宮市立今泉小学校における食育の取組、食習慣等に関する調査結果、「食育チャレンジシート」の効果等についてまとめましたので、各学校等において食育を推進していく際に、本資料を活用していただけたら幸いです。

最後に、宇都宮市教育委員会及び宇都宮市立今泉小学校をはじめ、関係者の皆様におかれましては、本事業の趣旨に御理解・御協力をいただきましたことに感謝申し上げます、御挨拶とさせていただきます。

平成30年2月

栃木県教育委員会教育長

宇田 貞夫

目 次

| | |
|---------------------------------|-----------|
| 趣 旨 | 1 |
| 宇都宮市立小中学校の食育の概要 | 2~3 |
| 宇都宮市立今泉小学校の概要 | 4 |
| 児童の実態 | 5 |
| 研究の概要 | 6 |
| 主な取組内容と食に関する指導の目標との関連 | 7 |
| | |
| 1 学校内のつながりを重視した取組 | 8 |
| 食に関する授業の充実 | |
| 児童会活動の充実 | |
| 栄養教諭と養護教諭の連携 | |
| | |
| 2 家庭とのつながりを重視した取組 | 14 |
| 学校と家庭の双方向で取り組む「食育チャレンジシート」 | |
| おにぎりの日、お弁当の日 | |
| 親子給食・授業参観 | |
| わが家のおすすめ餃子づくりコンテスト | |
| | |
| 3 地域等とのつながりを重視した取組 | 22 |
| 栃木県立宇都宮白楊高等学校との農業体験交流・交流給食 | |
| プロバスケットボールチーム リンク栃木ブレックス との交流 | |
| 様々な組織による取組 | |
| | |
| 文部科学省「食に関するアンケート」より | 30~31 |
| | |
| 成果・課題 | 32~33 |
| | |
| 最後に | 34~35 |

趣旨

近年、偏った栄養摂取など子供たちの食生活の乱れや肥満・痩身傾向などが見られ、子供たちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校において食育を推進することが喫緊の課題となっている。また、食を取り巻く環境が大きく変化する中、子供の食に関する課題を解決するには、子供の日常生活の基盤である家庭における実践が重要である。

このため、栄養教諭が中心となり、学校を核として地域の生産者や関係機関・団体等とも連携しつつ、学校においてより実践的な食育を行うとともに、その活動に保護者も参画し、家庭における望ましい食生活の継続的な実践にもつなげる食育の実践モデルを構築する。



宇都宮市立小中学校の食育の概要

- 宇都宮市の人口 1520,457人 (平成29年12月1日現在)
- 学校数 93校 (小学校 68校 中学校 25校)
- 児童生徒数 41,169名 (児童27,951名 生徒13,218名)
- 調理方式 自校調理方式 89校
給食センター方式 4校
- 学校栄養士配置状況 栄養教諭 17名
学校栄養職員 29名
非常勤学校栄養士業務嘱託員 48名
計 94名
(全校及び給食センターに1名ずつ配置)
- 市立小中学校の食育の推進

宇都宮市学校教育食育推進行動計画

基本理念

子どもたちが、生涯にわたり

心身共に健康な生活を送ることができるよう、

学校・家庭・地域企業が連携した食育を推進します。

基本方針 **1** : 各教科における指導の充実

基本方針 **2** : 学校給食における食育の充実

基本方針 **3** : 学校・家庭・地域・企業の連携による食育の充実

委員会名簿

| 役 職 | 所 属 | 職 名 | 氏 名 |
|-----|-----------------------------------|--------------|-------|
| 委員長 | 宇都宮大学 (地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科) | 教 授 | 大森 玲子 |
| 委 員 | 栃木県教育委員会事務局河内教育事務所 | 副 主 幹 | 吉川 真弓 |
| 委 員 | 宇都宮市教育委員会事務局学校健康課 | 課長補佐 | 後藤 知行 |
| 委 員 | 宇都宮市教育委員会事務局学校健康課 | 副主幹・ 指導主事 | 岸 敦子 |
| 委 員 | 宇都宮市立今泉小学校 | 校 長 | 木村 寛之 |
| 委 員 | 宇都宮市立今泉小学校 | 栄養教諭 | 小平 紀子 |
| 委 員 | 宇都宮市立今泉小学校 | 養護教諭 | 別井 正子 |
| 委 員 | 宇都宮市立今泉小学校 PTA代表 | PTA副会長 | 山崎美奈子 |
| 委 員 | 宇都宮市立今泉小学校 地域協議会代表 | 今泉保育園 園 長 | 大門美砂子 |
| 委 員 | 宇都宮市立今泉小学校 生産者代表 (県立宇都宮白楊高等学校) | 農業経営科 教 諭 | 阿久津晃一 |
| 委 員 | 栃木県農政部農政課 | 課長補佐 | 金田 晋平 |
| 委 員 | 宇都宮市保健福祉部健康増進課 健康づくりグループ | 係 長 | 吉田 琴 |
| 委 員 | JAうつのみや 営農部総合販売課 | 課 長 | 大塚 昇 |
| 委 員 | JA栃木中央会 農業くらし推進部 | 部 長 | 大出 正志 |
| 委 員 | JA全農栃木 営農販売企画部 | 部 長 | 野尻 重利 |
| 委 員 | (公財)栃木県学校給食会 | 事務局長 | 安川 充 |
| 事務局 | 栃木県教育委員会事務局健康福利課 | 課 長 | 野原 正祥 |
| 事務局 | 栃木県教育委員会事務局健康福利課保健給食担当 | 課長補佐(GL) | 大牧 稔 |
| 事務局 | 栃木県教育委員会事務局健康福利課保健給食担当 | 副 主 幹 | 塚原 治子 |
| 事務局 | 栃木県教育委員会事務局健康福利課保健給食担当 | 副 主 幹 | 稲葉 聖 |

実施日程

6月 事業開始前の調査・測定の実施
全体計画・年間指導計画の見直し
身に付けさせたい資質や能力一覧表作成
食育チャレンジシート検討・作成
食育チャレンジシート活用開始
校内・地域学校園WG開催
食に関する指導公開研究授業
地場産物100%給食の実施

7月 第1回県推進協議会開催
「わが家のおすすめ餃子づくりコンテスト」、
「食育キャラクターコンクール」、
「食育標語コンクール」募集
健やか教室(肥満傾向児童対象)
企業による食育出前講座
食に関する指導公開研究授業

8月 成長曲線活用講演会の開催(県)
食育講演会の開催(市)
親子料理教室の実施

9月 県立宇都宮白楊高等学校との
食農体験活動・交流給食の実施
プロスポーツチームによる運動教室・交流給食

10月 県立宇都宮白楊高等学校によるおやつ作り教室
推進協議会WG開催
交流給食の実施

11月 プロスポーツチームによるあいさつ運動・食育講話
食に関する指導公開研究授業の実施
地場産物100%給食の実施
高齢者との交流給食

12月 食育講演会の開催
「おにぎりの日」実施

1月 「お弁当の日」の実施
事後調査・測定の実施
取組の検証
校内WG開催
報告書作成に係る検討会

2月 第2回県推進協議会開催
報告書提出

食育チャレンジシートの実施



宇都宮市立今泉小学校の概要

合言葉

今泉の子 やさしく かしこく たくましく

学校教育目標

豊かな人間性をもち、
主体的に判断・行動し、
自らの向上と社会の発展を目指して
たくましく生きる児童を育成する。

目指す児童像

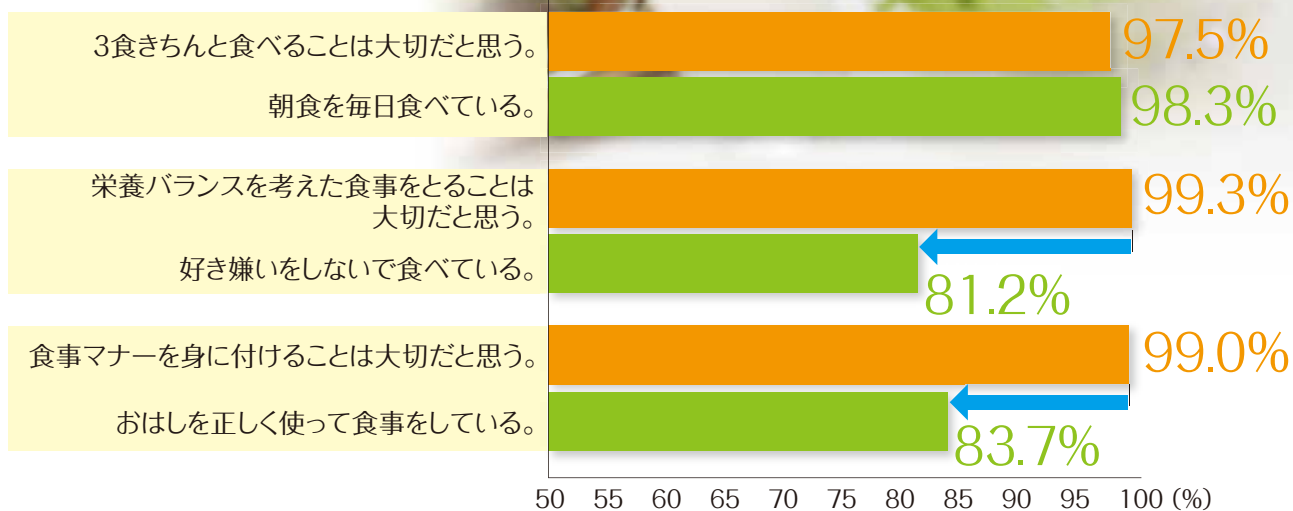
- ◇ 明るく、思いやりのある子
- ◇ 自ら考え、進んで学ぶ子
- ◇ 元気でやりぬく子



児童の実態

事前アンケート調査の結果(6月実施)

肯定的回答の割合(とてもあてはまる+まああてはまる)



- 栄養バランスを考えた食事をとることや食事マナーを身に付けることは大切だと思う児童の割合は高い。
- それに比べ、好き嫌いをしないで食べている児童やおはしを正しく使って食事をしている児童の割合は低い。

食に関する意識は高い ⇒ 実践へつなげる必要がある。

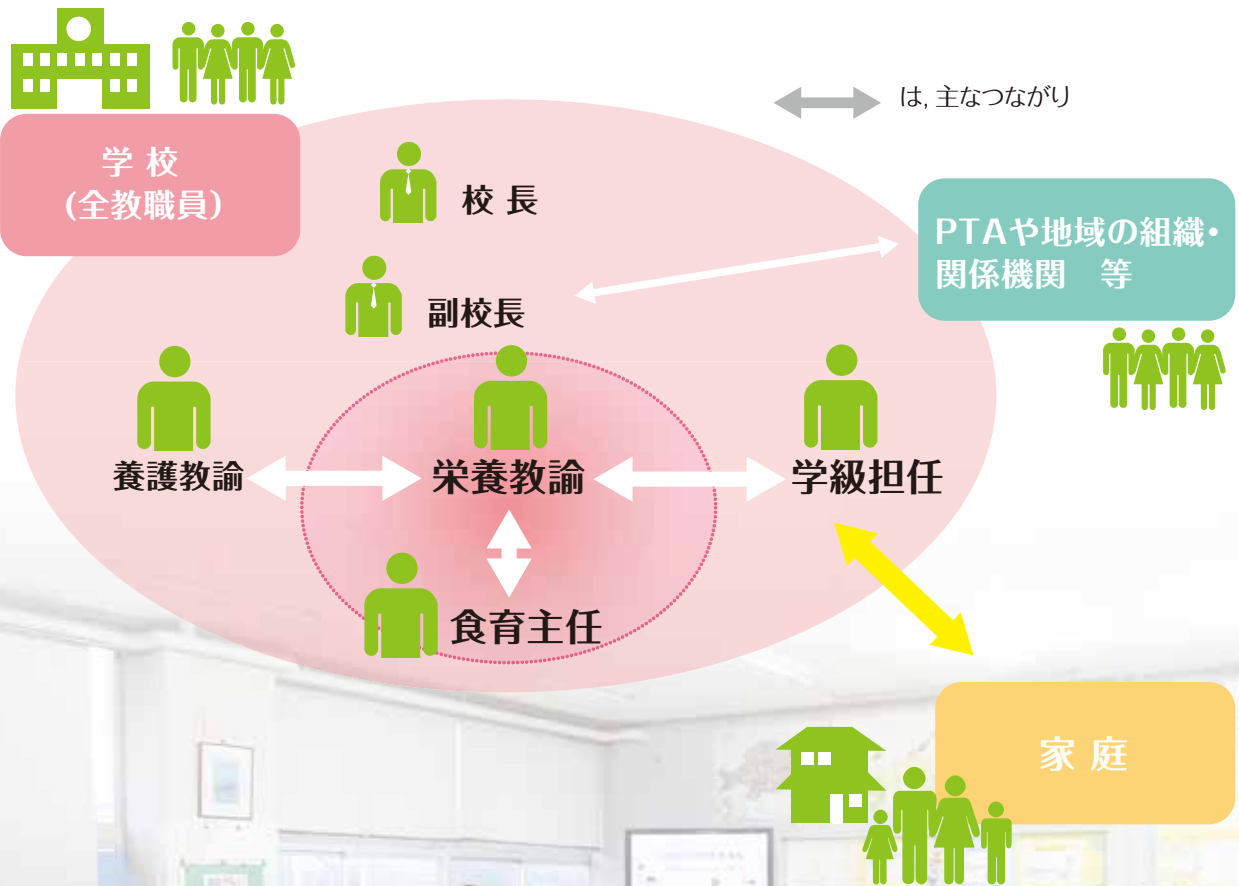
研究の概要

研究のテーマ

家庭とともに取り組む食生活改善プロジェクト

～ 食育チャレンジシートを活用した児童の自己管理能力育成 ～

研究推進体制



主な取組内容と食に関する指導の目標との関連

主な取組内容

1 学校内のつながりを重視した取組

- 食に関する授業
- 児童会活動
- 栄養教諭と養護教諭が連携した取組

2 家庭とのつながりを重視した取組

- 食育チャレンジシート
- お弁当の日
- 親子給食
- わが家のおすすめ餃子づくりコンテスト

3 地域等とのつながりを重視した取組

- 県立宇都宮白楊高等学校との交流
- プロスポーツチームとの交流
- 食育講演会
- 親子料理教室
- 食育出前講座

食に関する指導の目標

食事の重要性

心身の健康

食品を選択する力

感謝の心

社会性

食文化

本研究で目指すこと

食に関する意識の向上と食生活改善